

「板橋区子ども読書活動推進計画2030」の策定に向けた 読書に関するアンケート調査 報告書概要版

目 次

1 調査概要

(1) 調査目的.....	1
(2) 調査対象.....	1
(3) 調査方法.....	1
(4) 調査期間.....	1
(5) 回答状況.....	1

2 調査結果概要

(1) 子どもの読書の状況	2
(2) 読書の好き嫌い	4
(3) 学校図書館の利用状況	7
(4) 学校以外の図書館の利用状況.....	7
(5) 本をどのように選ぶか	8
(6) 電子書籍の認知度や利用状況.....	9
(7) 読み聞かせや読み聞かせ以外の読書活動.....	10
(8) 子どもの読書活動の推進に必要なこと	11

1 調査概要

(1) 調査目的

子どもたちの読書を推進するためには、子どもたちが自ら本を手に取り、本のおもしろさや楽しさを知り、読書する喜びを身につけていくことが重要である。

本調査は、子どもの読書活動を推進するために、家庭や地域においてどのような取組や環境が必要であるかということについて、板橋区や近隣区の小学2年生、小学5年生、中学2年生（8年生）とその保護者を対象に実施した。

(2) 調査対象

	調査対象	配布数（児童・生徒）
板橋区	児童・生徒（小2、小5、中2（8年生））及び保護者	10,957人
足立区	児童・生徒（小2、小5、中2）及び保護者	13,958人
練馬区	児童・生徒（小2、小5、中2）及び保護者	15,555人
杉並区	児童・生徒（小2、小5、中2）及び保護者	9,674人

※保護者については複数回答が可能であるため、児童・生徒への配布数のみ記載する。

(3) 調査方法

板橋区と足立区では、専用のアンケートフォームを案内文及びChromebookにより通知し、オンラインによる回答により実施した。希望者には紙の調査票を郵送し、郵送による回答ができるようにしたが、希望はなかった。練馬区と杉並区では、専用のアンケートフォームをChromebookにより通知し、オンラインによる回答により実施した。

(4) 調査期間

	調査期間
板橋区	令和6年5月20日（月）～6月 7日（金） ※6月14日（金）まで延長
足立区	令和6年6月 3日（月）～6月14日（金）
練馬区・杉並区	令和6年5月27日（月）～6月 7日（金）

(5) 回答状況

	調査対象	アクセス数(a)	回答数(b)
板橋区	児童・生徒	3,934件	2,582件
	保護者	5,072件	3,646件
足立区	児童・生徒	3,375件	2,108件
	保護者	2,540件	1,825件
練馬区	児童・生徒	233件	149件
	保護者	108件	74件
杉並区	児童・生徒	38件	10件
	保護者	90件	41件

※区外回答のうち練馬区・杉並区は回答数が少ないため、参考回答とする。

2 調査結果概要

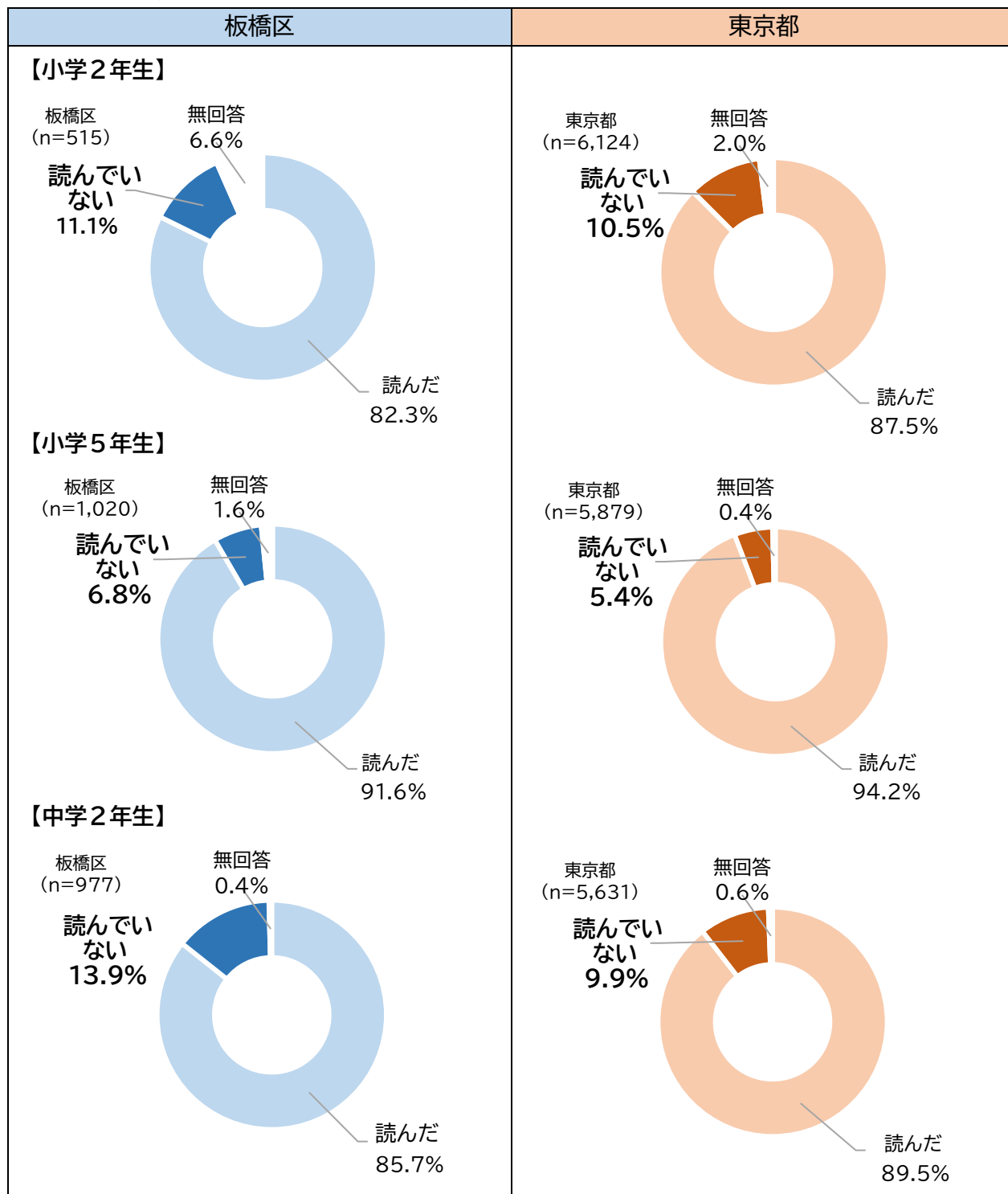
※板橋区との差異が見られないため他区の結果は省略する。

※表中の「n」は、その設問における回答数。

(1) 子どもの読書の状況

※比較対象として東京都の結果を追記する。

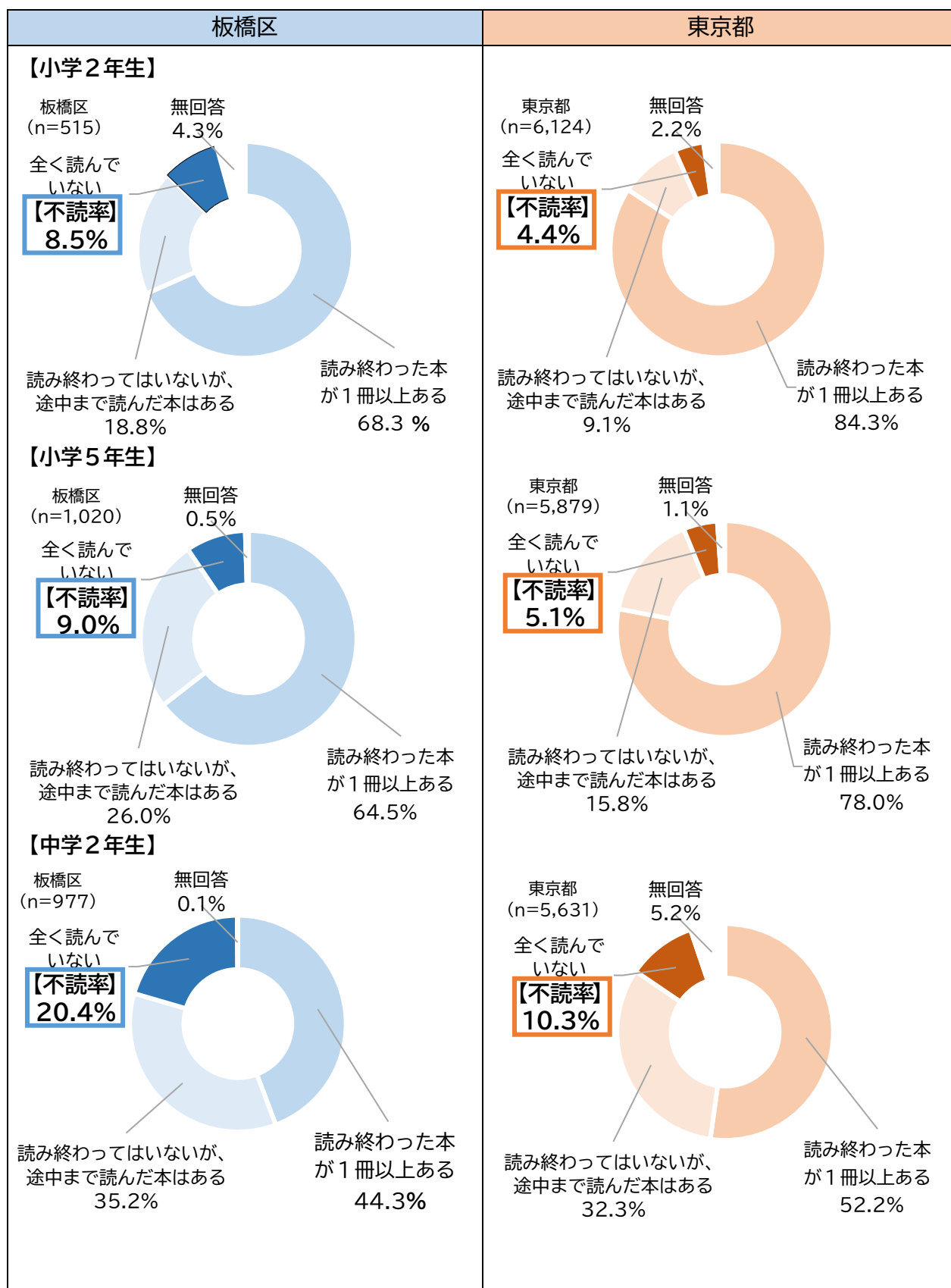
① 1 か月間の読書の状況（学校の授業（朝読書等含む）やインターネットを含む）〔子ども〕 -本編P5-



※[東京都の調査結果]令和4年度 子供読書活動推進に関する調査の集計結果（以下同じ）

② 1 か月間の読書の状況（学校の授業は含まない）[子ども] -本編P11-

東京都に比べて板橋区の不読率が高い結果になった。

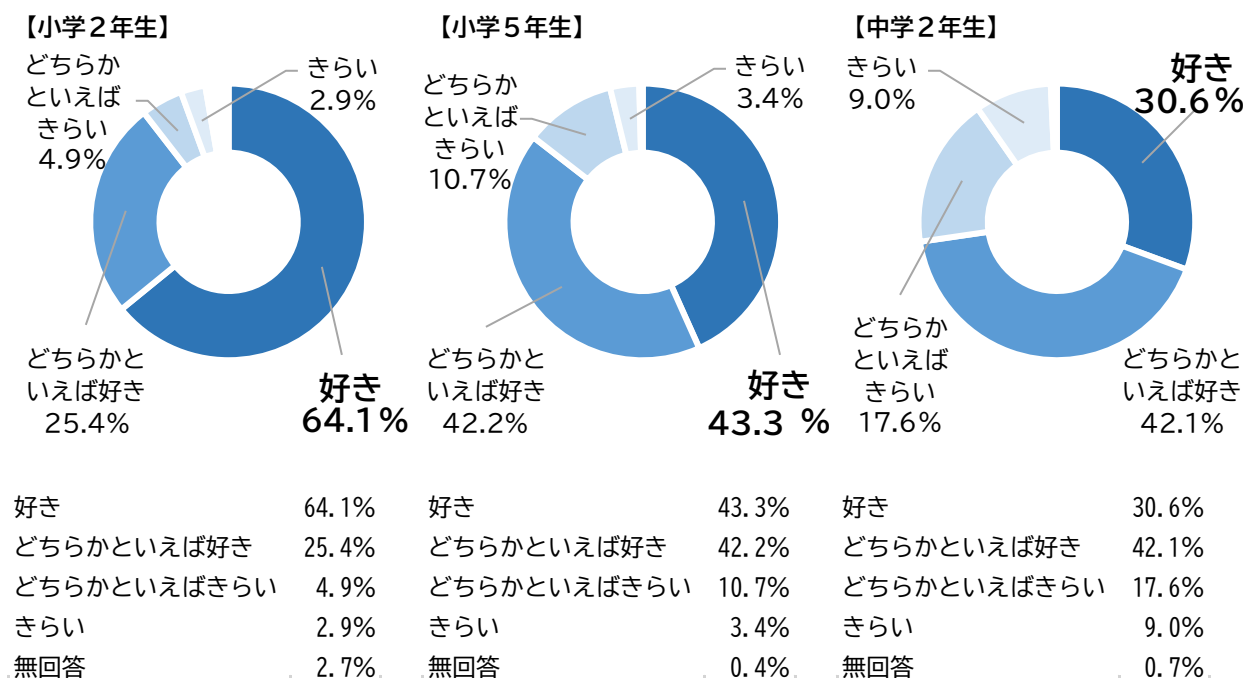


※[東京都の調査結果] 令和4年度 子供読書活動推進に関する調査の集計結果

(2) 読書の好き嫌い

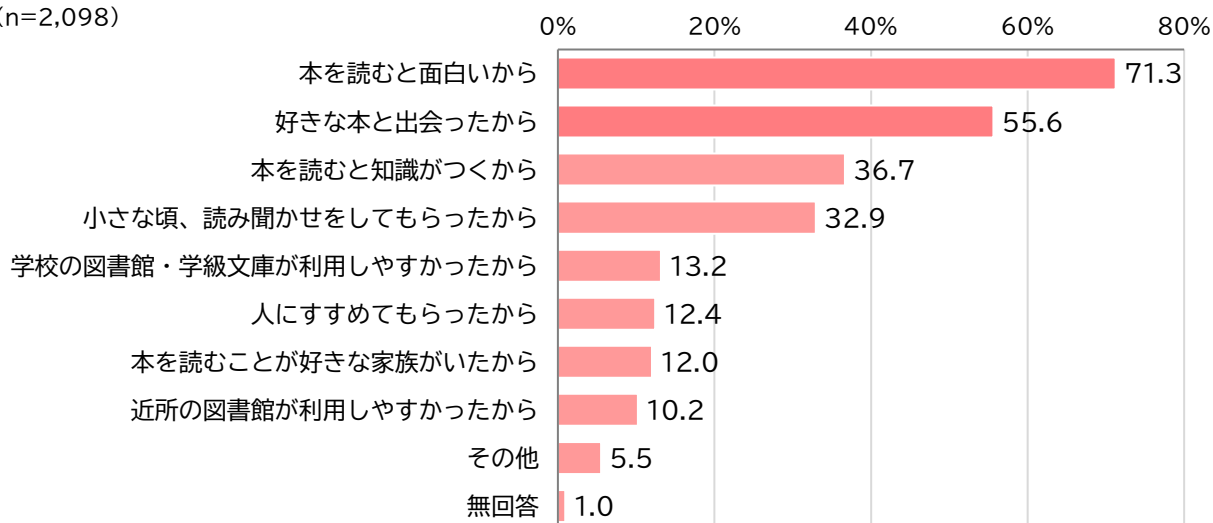
小学2年→小学5年→中学2年と学年が上がるにつれ「好き」の割合が大幅に減少している。

①読書の好き嫌い【子ども】-本編P21-

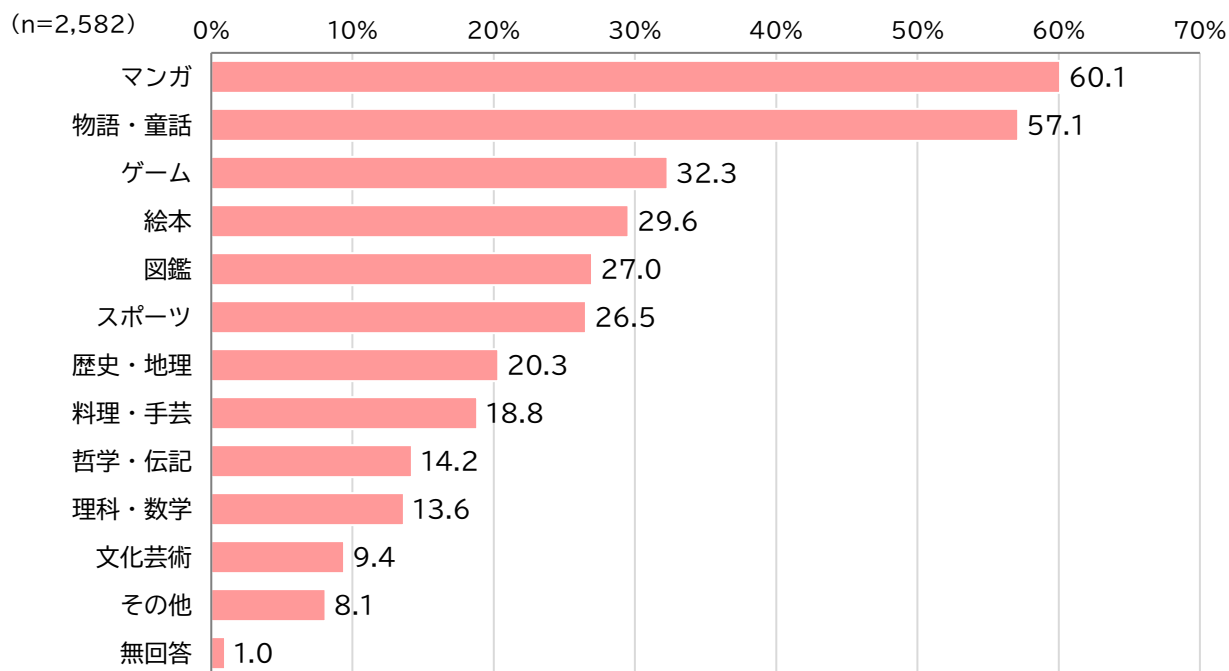


②読書が好きになったきっかけ【子ども】-本編P22-

(n=2,098)

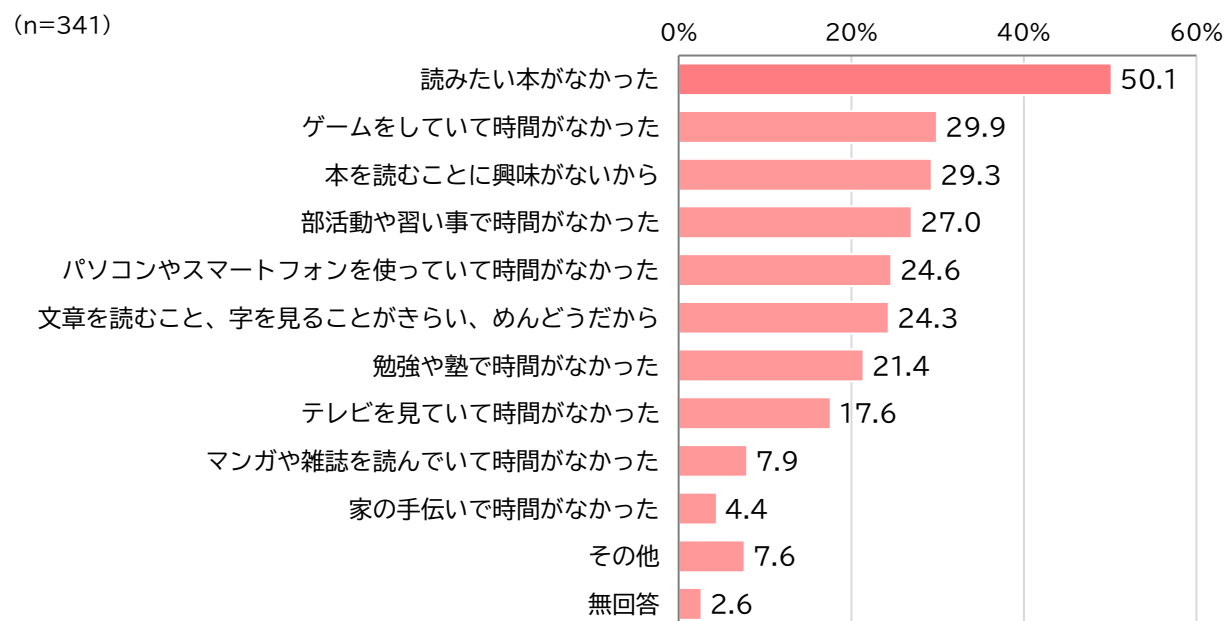


③好きな本【子ども】-本編P9-



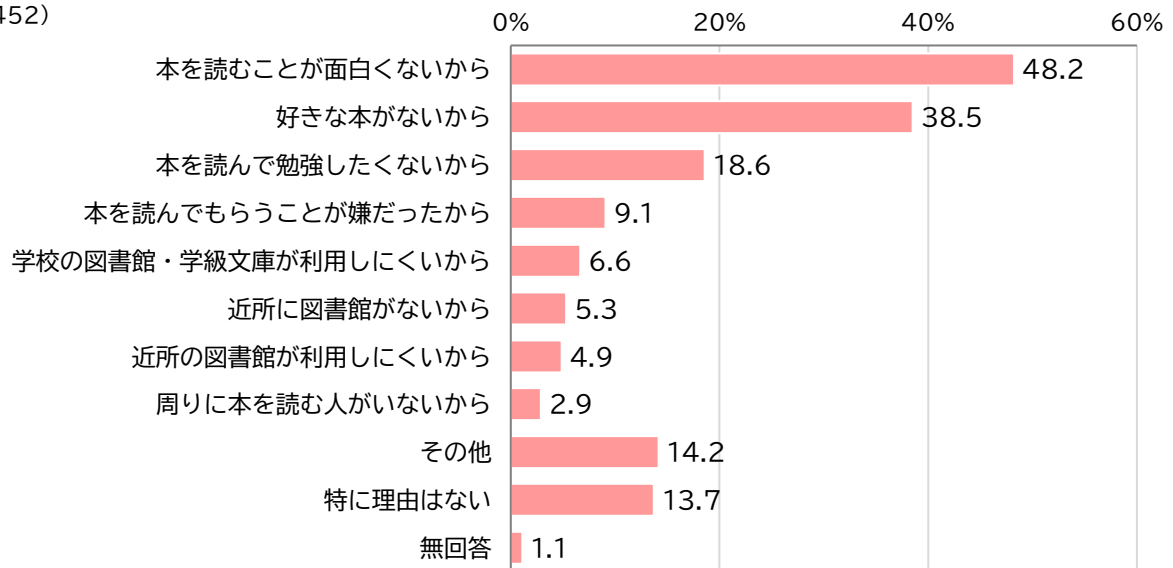
④読書をしなかった理由【子ども】-本編P15-

半数以上が「読みたい本がなかった」と回答している。



⑤読書がきらいな理由【子ども】-本編P23-

(n=452)



～その他の意見～

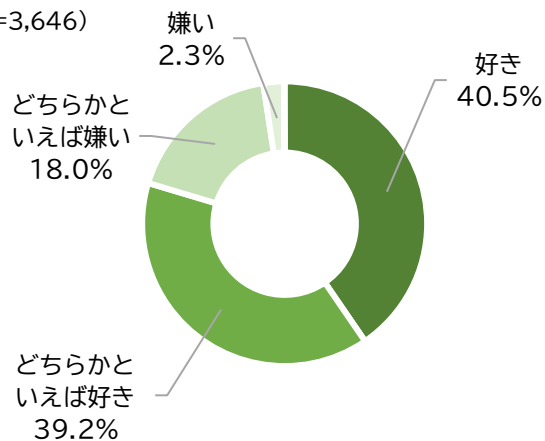
記述が多かった内容

○読書が苦手 ○読書が嫌い ○読書が面倒くさい ○読書をすると疲れる

⑥読書の好き嫌い

【保護者】-本編P34-

(n=3,646)

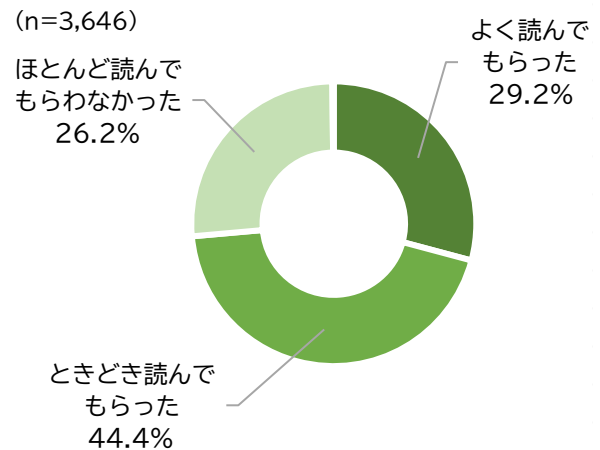


好き	40.5%
どちらかといえば好き	39.2%
どちらかといえば嫌い	18.0%
嫌い	2.3%
無回答	0.1%

⑦子どもの頃の読み聞かせの経験

【保護者】-本編P35-

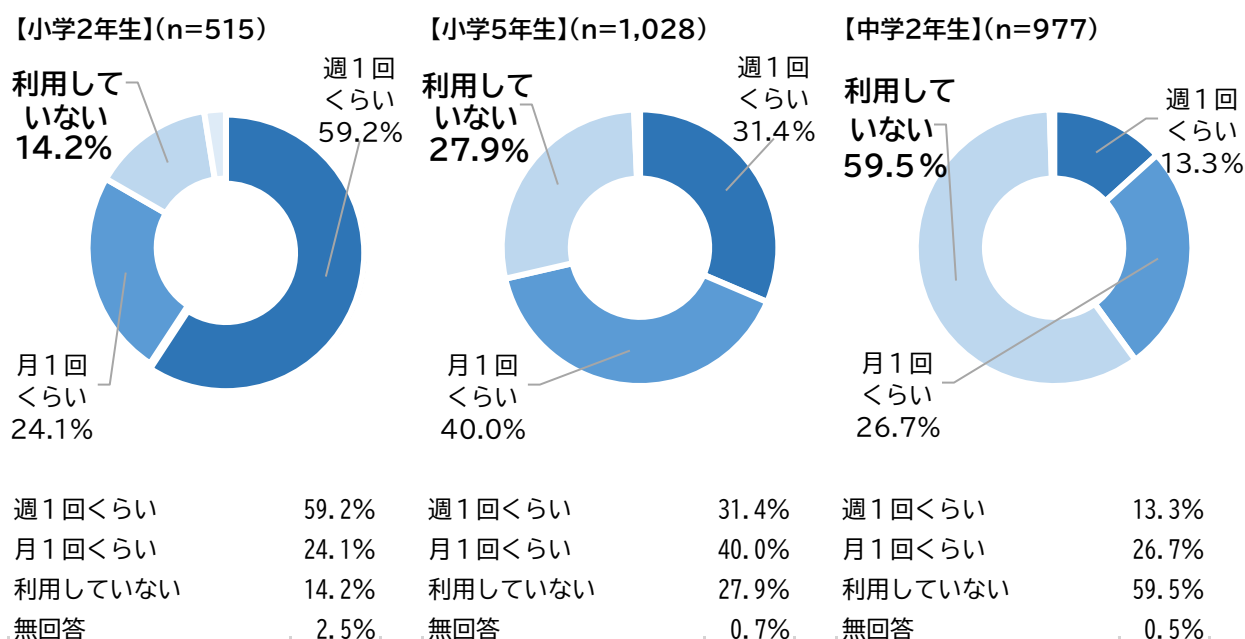
(n=3,646)



よく読んでもらった	29.2%
ときどき読んでもらった	44.4%
ほとんど読んでもらなかった	26.2%
無回答	0.2%

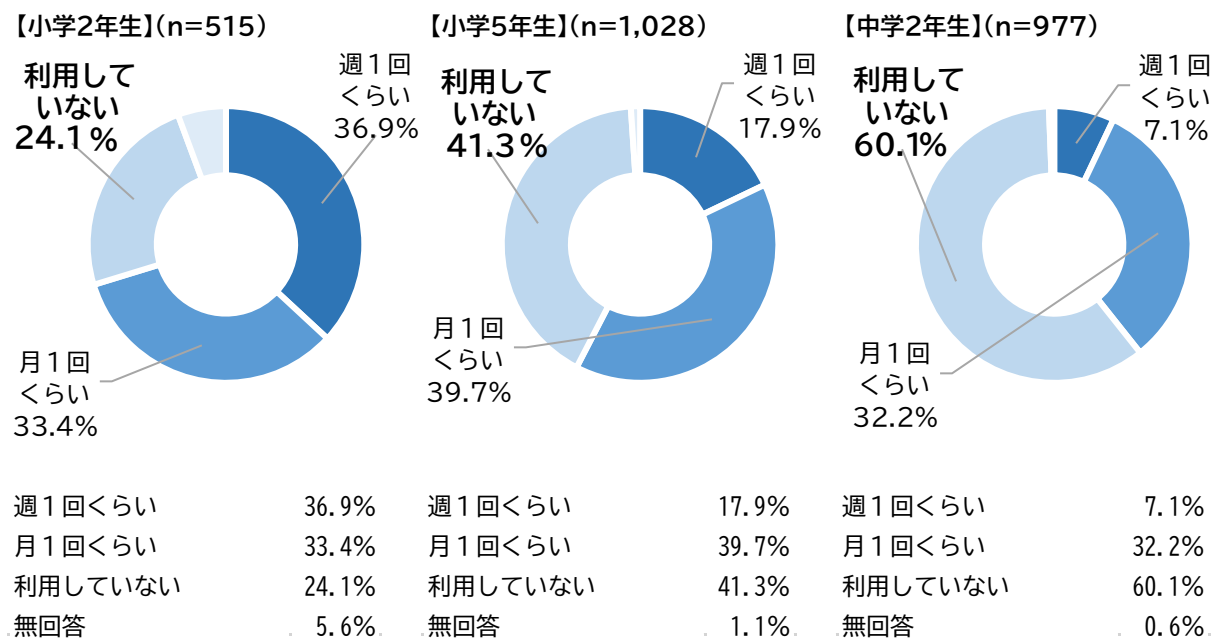
(3) 学校図書館の利用状況

①半年間の学校図書館の利用状況【子ども】-本編P19-



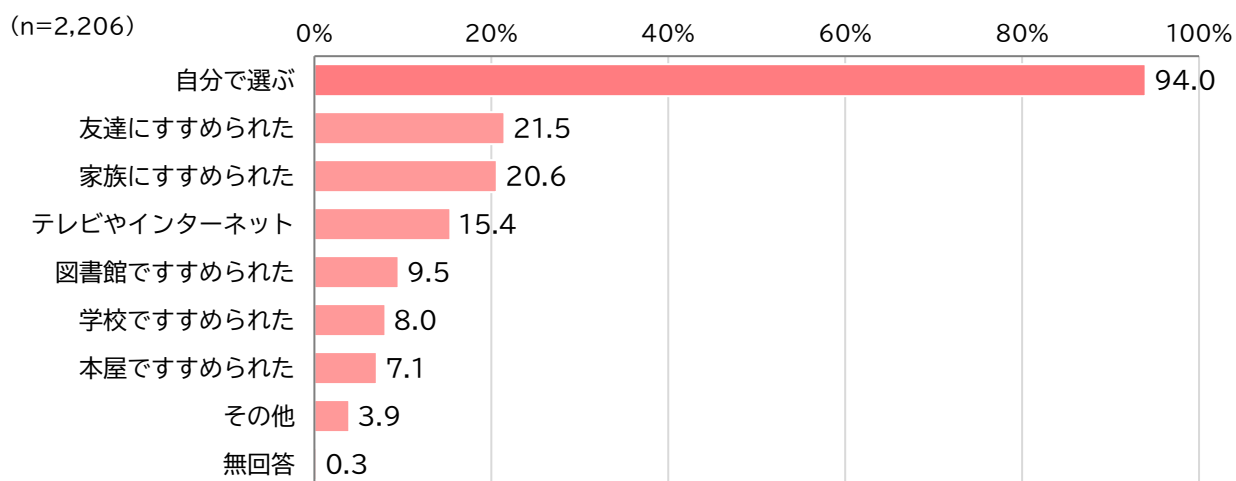
(4) 学校以外の図書館の利用状況

①半年間の学校以外の図書館の利用状況【子ども】-本編P20-

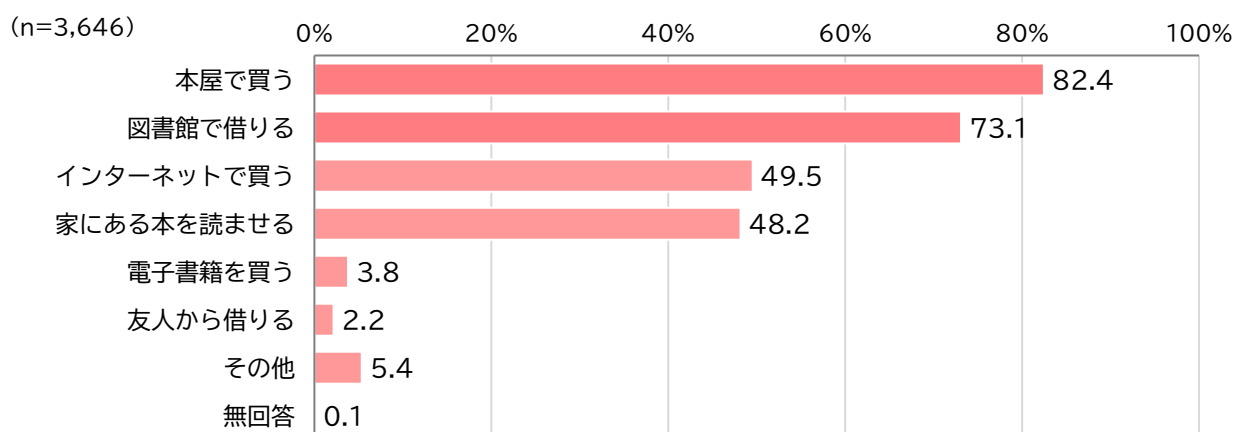


(5) 本をどのように選ぶか

①本の選定方法【子ども】-本編P14-



②子どもの本の準備方法【保護者】-本編P38-



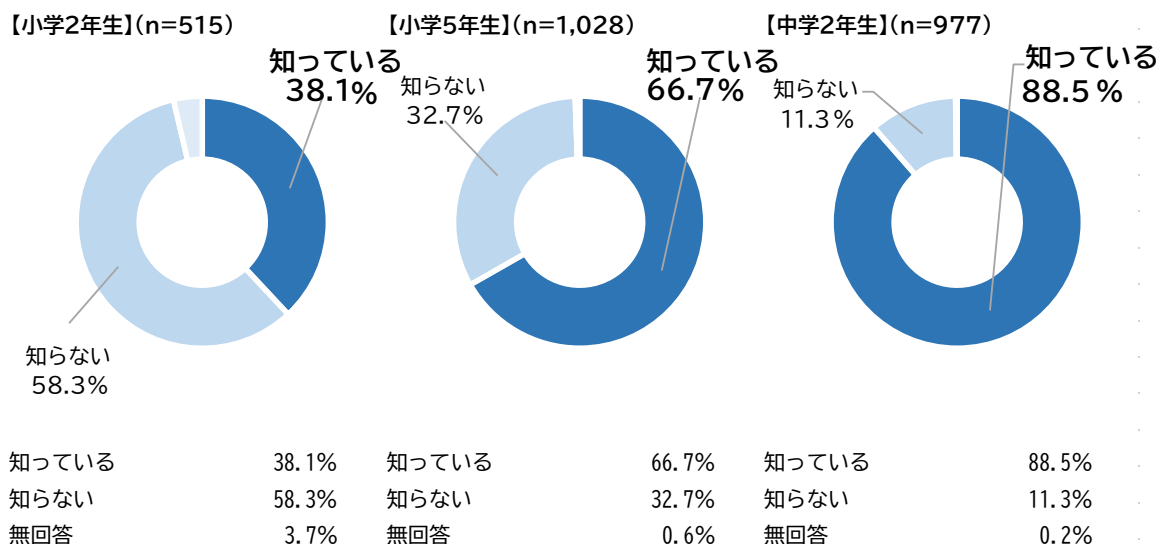
～PICKUP★記述内容～

○まずは映画やドラマ、アニメのノベライズでもいいので、興味のある本を読めるように話題の本のコーナーを作るなど興味を引くようにすると良いと思います。先日池袋の梟書茶房に子どもと行きましたが、中身の見えない本のあらすじを読んで本を選ぶのがとても楽しそうでした。学校でも取り組めるのではないかと思います。

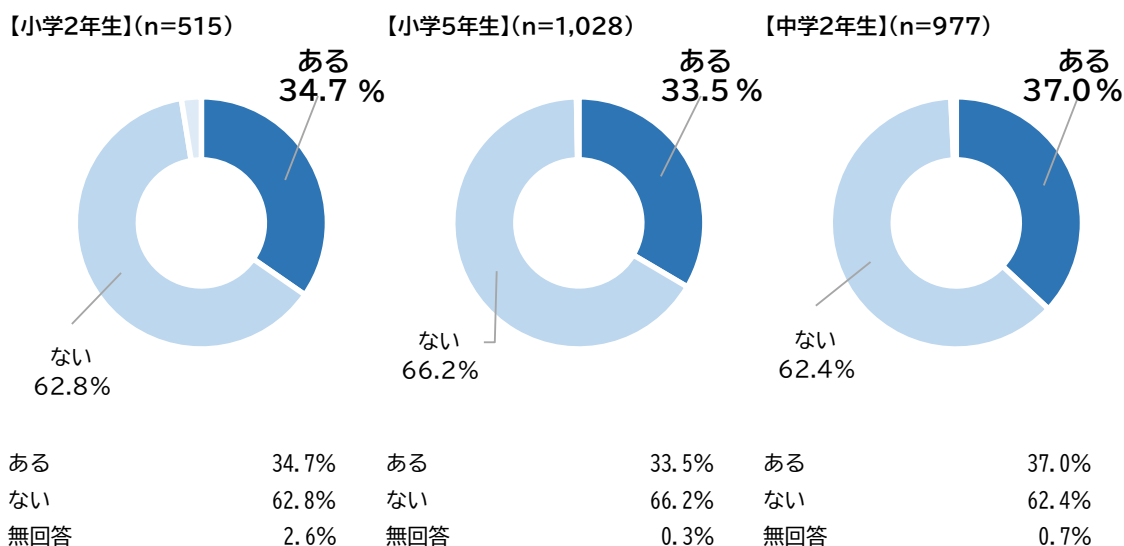
(6) 電子書籍の認知度や利用状況

令和6年4月から、板橋区の小中学生は、学校で配付されたChromebookを利用して電子図書館での読書が可能となった。インターネット環境があれば、学校でも家でも利用するため、朝読書や授業の教材、自宅学習での活用を推進している。現状、電子書籍の認知度は学年が上がるにつれ上昇しているが、利用状況が伸びていない。

①電子書籍の認知度【子ども】-本編P10-



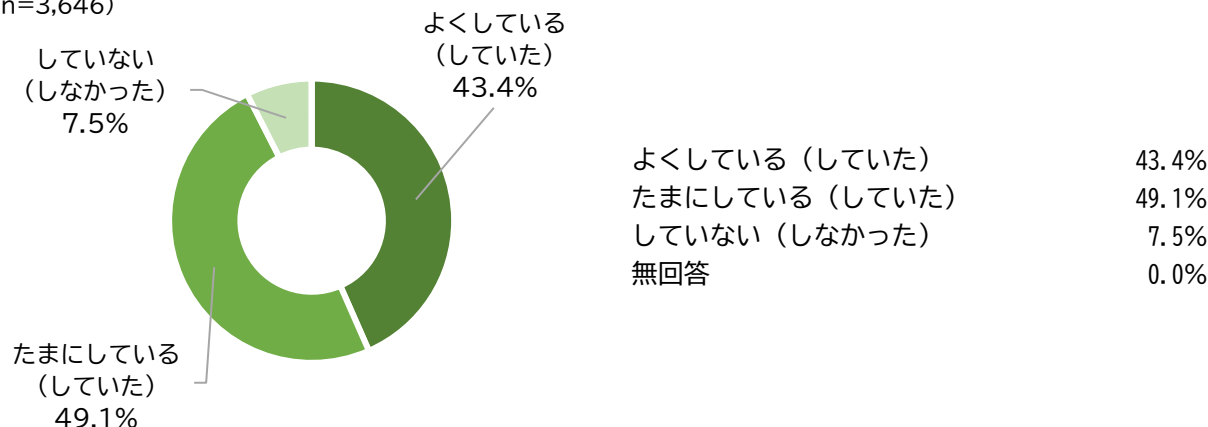
②電子書籍の利用状況【子ども】-本編P13-



(7) 読み聞かせや読み聞かせ以外の読書活動

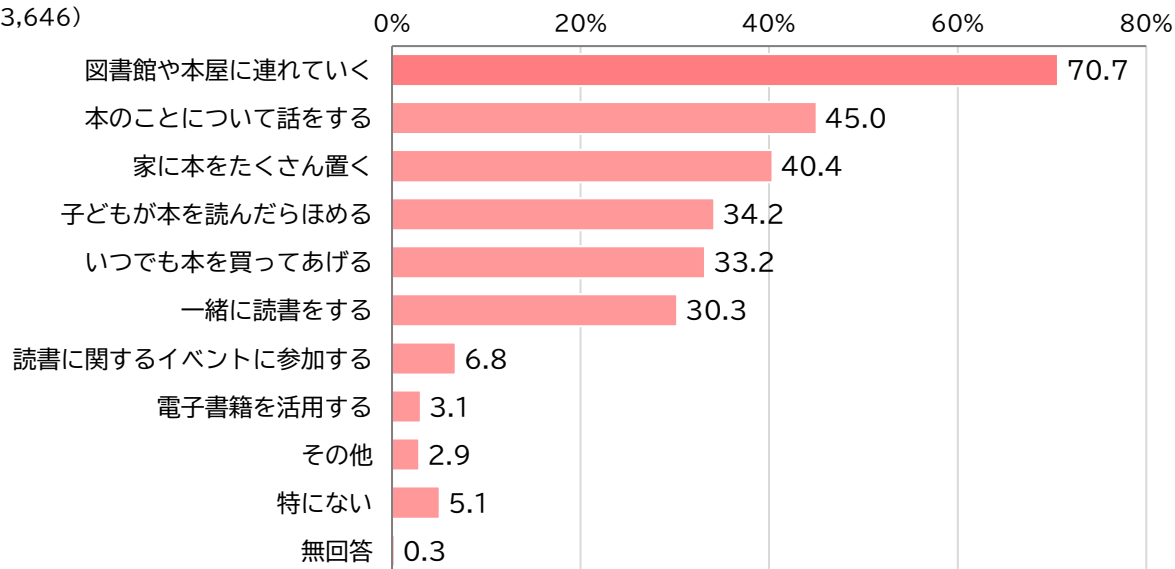
①子どもへの読み聞かせの状況【保護者】-本編P36-

(n=3,646)



②読み聞かせ以外の子どもへの読書活動【保護者】-本編P40-

(n=3,646)



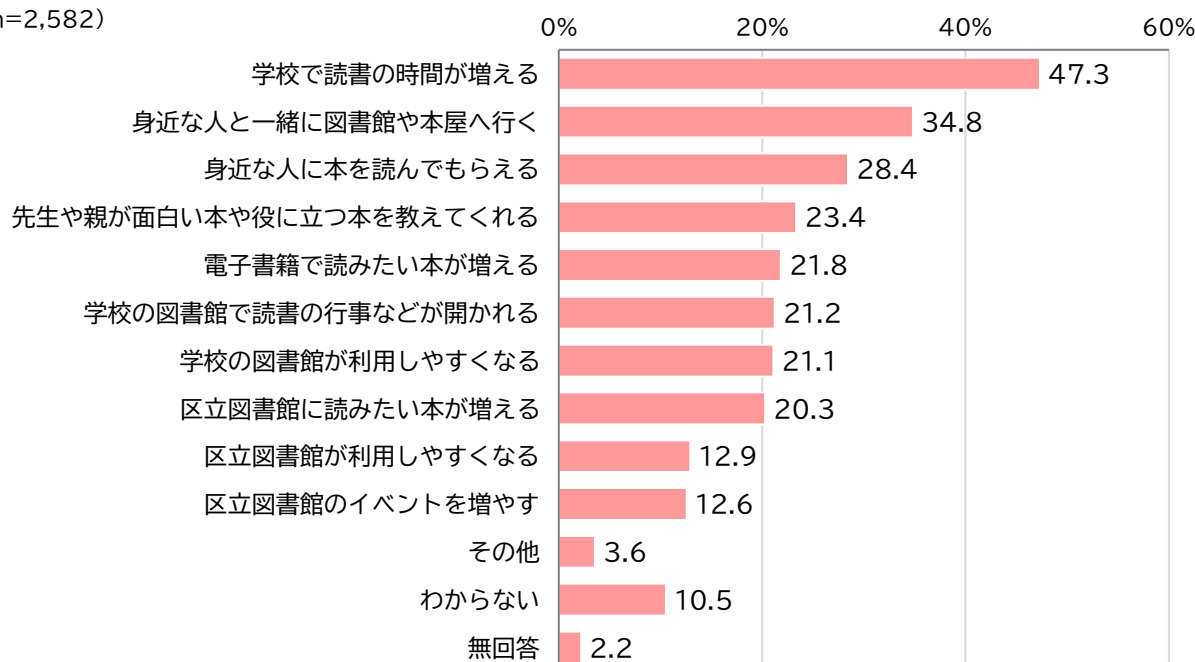
～PICKUP★記述内容～

- 食後の時間を「食休み」とし、必ず本を読ませています。長男6年生は食休みの読書は必ず活字の本、次男2年と三男3歳は絵本でもマンガでも本であればOKにしています。
- 子どもが宿題をしている時間は、こちらは読書をしたり、TikTokやYouTubeを活用して、興味を持てる本と一緒に探したりしています。とにかく子どもの周りに本を読む環境があれば、勝手に読みます。また、読みたいと言った本に対し絶対に否定しないと決めています。
- 本人の自発的に話してくれた感想をよく聴いて褒め、読者カードに書いたり作家さんにファンレターを書いたりします。絵本作家さんのイベントで三浦太郎さんにお会いできた時も本人大喜びしていました。原画展にもよく出かけています。

(8) 子どもの読書活動の推進に必要なこと

①読書を推進するために必要なこと【子ども】-本編P24-

(n=2,582)

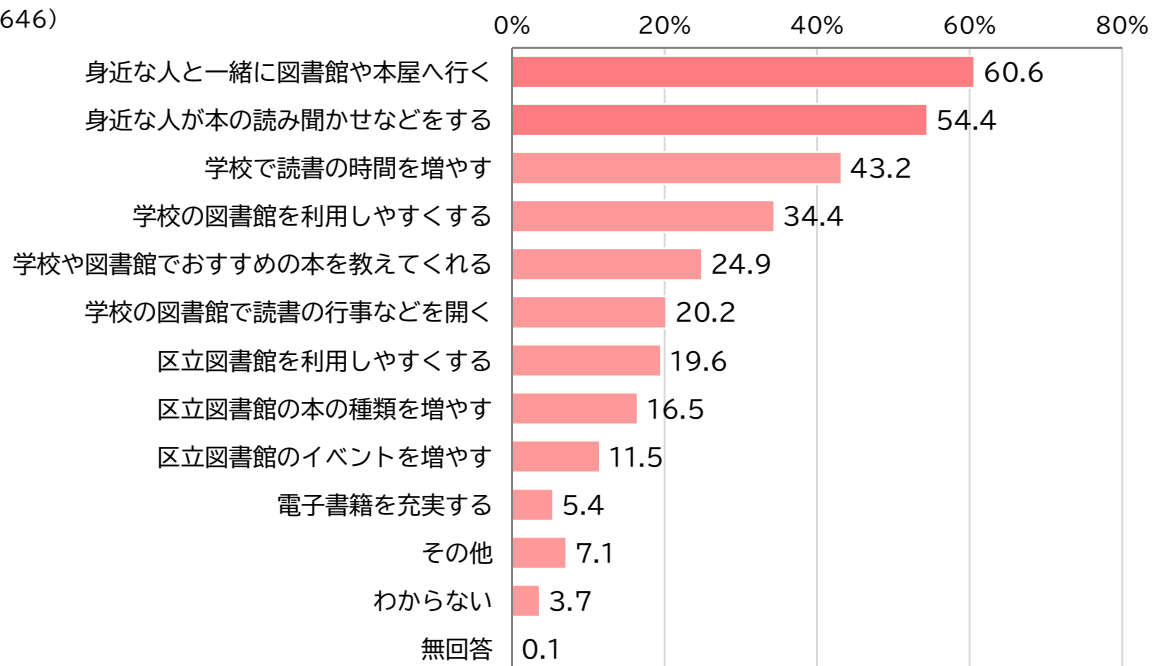


～PICKUP★記述内容～

- もっと本が読みたくなるようなイベントなどを開いてほしい。向原小学校では、本を借りる券を使うとシールがもらえ、1つの紙に貼って絵を完成させるというゲーム的なものがあった。
- おススメは図書館に掲示されているけれど、図書館にいかないといけないから、YouTubeなどでそれを紹介したり、学校でどんなお話かあらすじを伝えるみたいなのがいいと思います。
- 文字が小さくて長い文章を読むことがめんどくさいな、大変だな、早く読み終わりたいな、と感じることが多々あります。しかし、友達にスラスラ読める本をすすめてもらって本を身近に感じ、読むことができるようになりました。みんなが身近に手に取れるような本を増やすことが大切だと感じます。
- 去年か一昨年頃から、学校での図書の時間がほとんどなくなり、図書室で本を借りることがとても少なくなった。中休みに借りるにしても友達と外へ行ったりすることもあるので、もうちょっと図書の時間がほしい。
- もう少し、図書の時間を増やしても良いと思う。中学生は勉強の進行度や受験も控えているので難しいと感じますが、それが将来に繋がる可能性もあるので、ぜひ検討していただきたいなと思います。

②子どもの読書活動の推進に必要なこと【保護者】-本編P42-

(n=3,646)



～PICKUP★記述内容～

- 絵本を読むことは大きくなっても恥ずかしい事ではないと大きく取り上げる必要があると思う。字の読み書きや読解力が低下していると特に絵本は刺激になると思う。
- 子ども達が書籍を手にする環境や機会を増やすことも大切ですが、一方的に読めと言って読むものでもありません。子どもの周りの大人も一緒に読書を楽しみ、読書が如何に有意義なものか考え、子ども達に見せて伝えていくことも必要かと思います。タブレット（ノートパソコン）を区から貸与されているので、ゲームなどを買い与えなくても、子ども達はそちらでできる動画（YouTube等）の視聴やゲームに夢中になります。知識や情報を得る手段は読書だけではありませんし、動画やゲームが全て悪いとは思いません。ですが、有限な時間の中で何にどれだけ時間を割くかは、ある程度大人がマネジメントしないといけないと考えています。各種コンテンツと接する時間のバランスやスケジュールの管理の方法、あるいはそれを子ども達にどうプレゼンしてコントロールしていくか、子ども達に自制・自律し、各コンテンツから如何に学びを多くしていくかなど、もっと子どもも保護者も学んでいく機会を増やしていただければと思います。そのような講習会などは今までも開催していただいたかと思いますが、行きたくても仕事や家庭の都合で拝聴しに行くことができないでいました。そのような機会を自宅や空き時間に動画などで得ることができればと感じます。